

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ピンキラー 4	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.450	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ピンキラー 4

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：ピンキラー 3

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

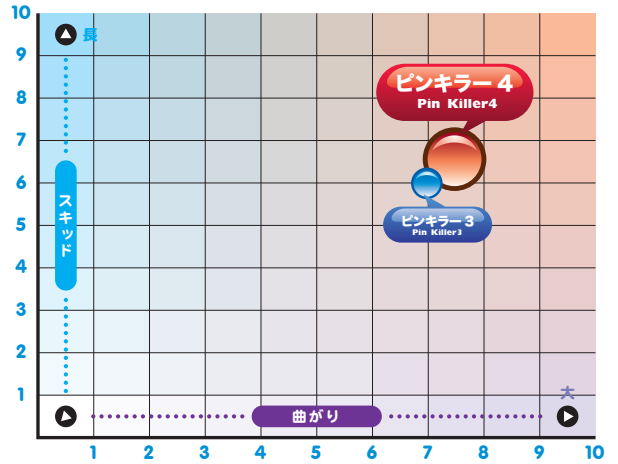
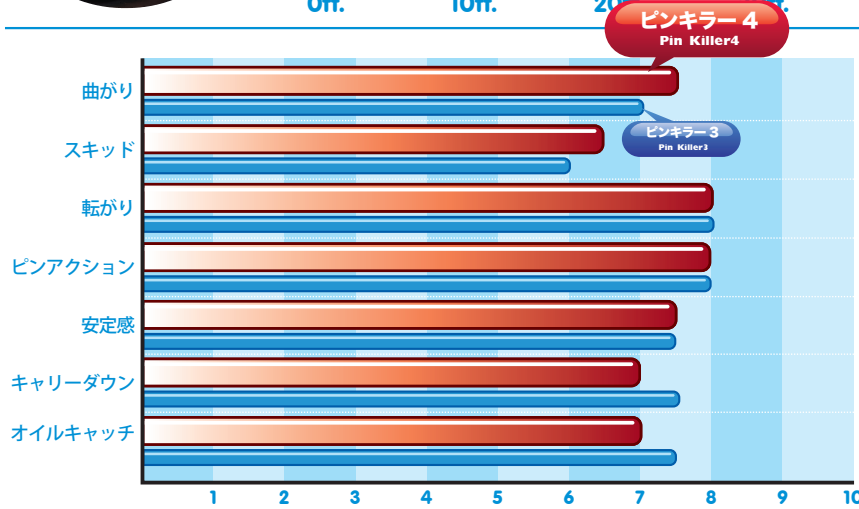
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

良く走り・良く切れる。今回のピンキラーIVは皆さんがピンキラーというブランドに求めているもの全てを兼ね備えています。コロニア社「リコシェ」とダイノタン「ピンキラー」。メーカーさえ違えど、求めているのは過激なまでのバックエンドリアクションと言えるでしょう。今回のピンキラーIVも走りと切れに拘りつくりあげました。

前回のピンキラーIIIは手前からの摩擦力の強いKILLER REACTIVE MAXXをあえてExtender Polishしてスキッド調整を行い、バックエンドまでエネルギーを保つコンセプトでした。今回ピンキラーIVの開発コンセプトはピンキラーIIIよりもオイル上でのスキッド力を強化すると同時にドライゾーンで最大の摩擦係数を得ることです。

パワーによって生み出される直進力を表すスキッドと曲がりを得るための回転動力。キャッチさせ過ぎず、またスキッドさせ過ぎず、回転動力を如何に効率よく、且つバランスよくバックエンドまで活かし、鋭いリアクションとして表すことができるか。

特に切れるボールの”生命線”であるドライゾーンでの反応が鋭く、拘り尽くしたからこそその性能を感じて頂きたいのです。

今回も心臓部に”Keen Core”を採用し、このコアのパフォーマンスと日々進化を遂げるカバーストックとの”切れる限界領域”を目指しました。先での動きを強調させている分、暴れる印象を受けるかもしれません。しかしドライゾーンでの反応の良さを活かしながら手懐けさせる楽しみもある性能でもあります。加速しながら一気に切れるリアクション。

これこそが皆さんがピンキラーIVに求めていたものと感じて頂けるでしょう。

特記事項

走る・切れるの代表的ブランドのピンキラー。
ドライゾーンでの反応に拘り、加速するバックエンドリアクションを是非お試しください。